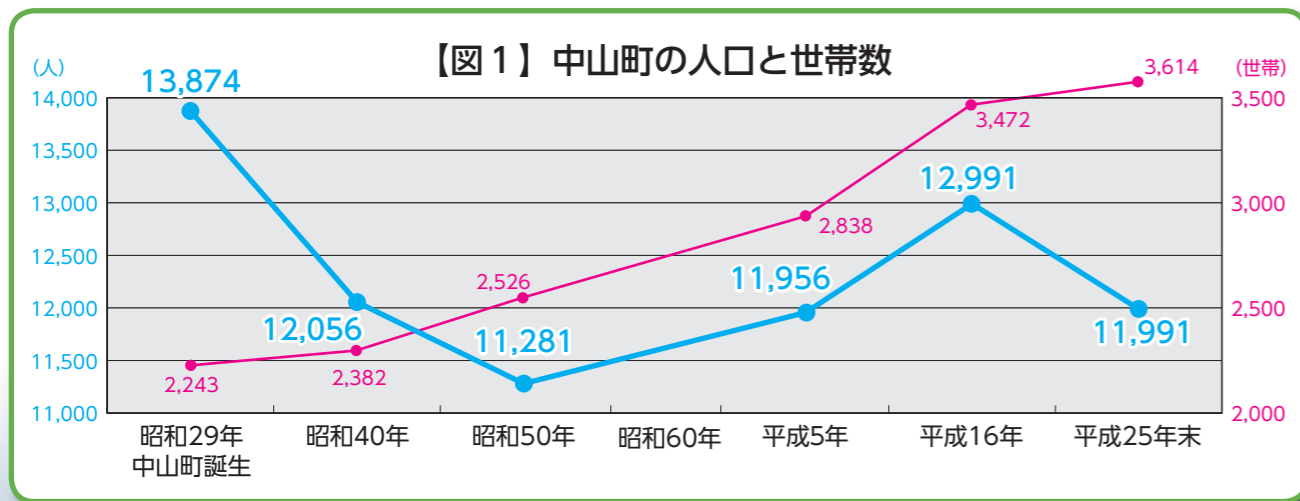


## 町人口約20年ぶりに12,000人を割り込む

# 特集 人口減少・少子高齢化にどう歯止めをかける？



■急速に進む少子高齢化と人口減少の時代

日本は世界に例をみない速度で高齢化が進んでおり、特に団塊の世代(※1)が高齢期に入る平成27年頃には高齢者人口がさらに急激に増加すると予想されています。

また、少子化も深刻な問題となっており、これに伴い、わが国の総人口も平成17年度に明治以降はじめて減少に転じ、人口減少時代を迎えました。

■中山町にも急激な人口減少・少子高齢化の波

中山町は【図1】のように、町誕生時は1万3,874人でしたが、町外への人口流出が止まらず、昭和50年には1万1,281人まで減少しました。

しかし、そこから着実に人口増加をたどり、平成6年1月には1万2,000人台に転じ、10年後の平成16年1月には1万2,991人まで増加しましたが、そこをピークに町にも少子高齢化の波が押し寄せ、人口は徐々に減少。昨年末には約20年ぶりに1万2,000人を割り込みました。

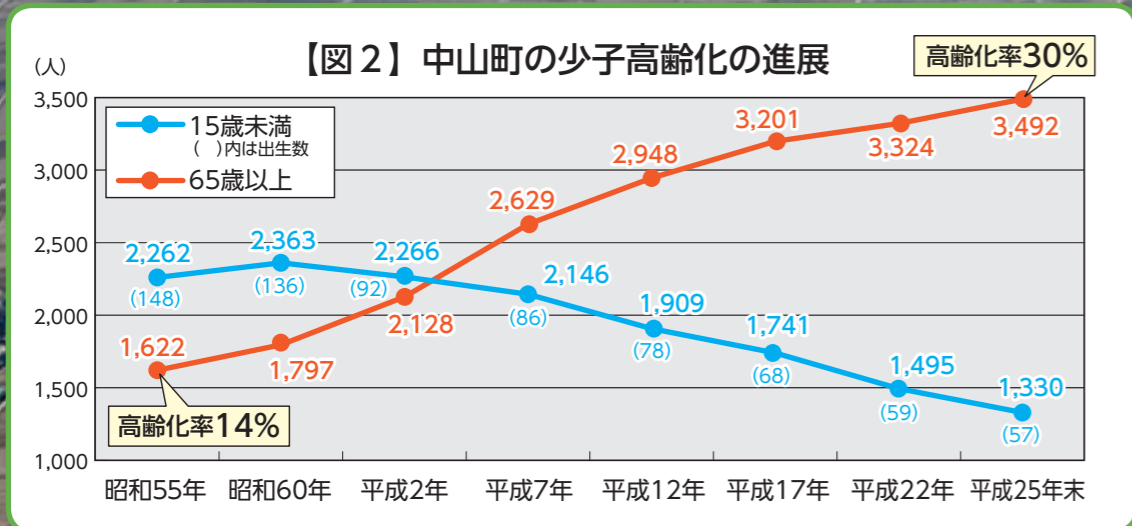
ただ、世帯数は増加を続けており、総世帯数に占める核家族世帯(※2)の割合は平成22年国勢調査では県内市町村で3番目に高い割合となっています。これは、多世代同居型家族形態から核家族化が進行していることを表しています。

また、【図2】に見るように急速に少子高齢化も進んでいます。中山町の高齢化率(※3)は昭和55年は約14%だったのに対し、昨年末には約30%まで上昇。反対に15歳未満の子どもの数や出生数は急激に減少しています。

■人口減少・少子高齢化がどういった影響をもたらすのか？

町の人口が減り、若者流出による高齢化の加速は、町そのものにぎわいや活気をなくし、税収減による公共サービスの低下を招くなど、非常に深刻な問題につながっていきます。この問題を放っておくと、災害などの非常に時に助け合いができにくくなったり、商店や工場の衰退、伝統が継承できなくなったりするなど、町そのものの衰退につながっていきま

ます。さらに、人口減少や近年の生活様式の多様化によるコミュニティの希薄化は、高齢者孤独死の増加、若者の社会参加の減少による活力低下、自治会や各種団体の役員への負担増に伴う担い手不足、また、自治会間格差などが進行していく危険性があります。



※1 団塊の世代…第2次世界大戦後のベビーブーム世代  
 ※2 核家族世帯…夫婦のみ、両親またはひとり親と子どもから構成される世帯  
 ※3 高齢化率……全人口に占める65歳以上の割合